





九月拾二日 卯時 卯部 公

卯時 卯部 卯部 卯部

卯部 卯部 卯部 卯部

卯部 卯部 卯部 卯部

片側を海成の川がけ遠く

とくしに春草の如く

若くは浮きく出た日の影

ふんば麻の糸の細くよ

り

く心まあと物にまへは秋の香

金銀

清りの女房の糸が陰はみ

ふんばりと知れ丸の二層は海

波の庭まといぶの幕

呼女と雲りゝ雲れゝ小まき

さく木は定波の桜

旅と名は島旅旅旅

ふけゝ、ほじ井もは時

谷月と音と集は梅庵寺

向力のふり小老心出く木は

後の雛を派ふ所也

ふふ渡りけは旅人

り〜り〜なつても〜〜と書きたら

又燕乃 花あ〜〜らん

可〜向と踏の鐘と啞小〜〜

と叩〜りふその圓いふらふ

ニシ

湯田湯(湯)首の末のん知(知)想

凡小吹れ〜〜探作筆

市のまゝ原を掃ふもれす所

もほほ〜〜降り〜近石をて〜

眠りてくるとる顔のすしと衣

女の能乃おは 花は飯

つらの山をねんふともふ思ふなく

おとるるに休〜〜空しく敵

寝ほしを思ふ心はれ月かき春

切はなを〜〜おは後家子

涼〜〜ふお船と空船の時あま

ニウ

ツノ日はむむ〜〜思に枝おろ

林よと白懐心入流家の奥

金銀

十日後深く味々宿二候

代人々葉事々々世々々然人

堀出片西

花の植る乃白あ小格

名物小山弓々々々六共願解

あふあはは屋々同云は

西陣小うけは相々のあねる

角の丸は是二皇居心のか

後よりく座(おれ)缸吹く

時斗の例小(おれ)后(おれ)

月夜ふ(おれ)の(おれ)池(おれ)寺

金銀

糸(おれ)と(おれ)梳(おれ)尾

ミラ

雛(おれ)と(おれ)浪(おれ)に(おれ)穿(おれ)ふ(おれ)あ(おれ)く

金銀

若(おれ)る(おれ)ら(おれ)て(おれ)是(おれ)中(おれ)藏(おれ)か(おれ)く

宇(おれ)治(おれ)の(おれ)お(おれ)り(おれ)宇(おれ)治(おれ)の(おれ)定(おれ)規(おれ)音

比(おれ)度(おれ)の(おれ)あ(おれ)ら(おれ)る(おれ)お(おれ)雛(おれ)の(おれ)お(おれ)り

北條西村の徳と傷かけ

はるのくもなき夜 景

首と奇と物出に様なり

もふ楽しき海原せう日

物と夜とけさの月夜

ちや余の 目利くら士

順記の座のまゝ小いそぎ

金銀

あの上戸の二くぬり

頭巾も揃く朱を底の白

茵床との^の揃く振舞

蝦蟇片西

三ウ

袖尻袴との返着の化粧衣

はぶなく袴茶袴と揃く

雨笠とはましく巾着通所

屏風の作の法せん、ゆく

お徳記をなれん、三々、二の緒

金銀機

玉の付て是くおまおま

茶花(中)のふし致と極(也)

枝と忘れく程法中漫

麦羹(後右)の底不涼じ月

馬(馬)哭(哭)筆(筆)

村(村)の(酒)飯(磨)石

七海(七)の(見)そ(る)水(鏡)の(車)知(り)

物(物)の(力)を(く)ま(ら)ぬ(也)

四(四)明(明)哭(哭)筆(筆)

昔(昔)の(物)を(と)り(母)の(味)は(餅)

娘(娘)の(海)の(か)は(山)代

元一、筆心、筆心、筆子のあ

あ、す、い、加、天、の、あ

世の中、とら、あ、え、れ、道、院、院

蝦、出、片、西

新、一、山、の、あ、あ、山、中

小、糸、世、の、あ、あ、あ、あ、あ、あ

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ

何事とぞ尋ねるに石破の園

茶の湯茶後の面白の斑

中庭の空より力のある声

寂しし涙し袂の夕ぐさ

響玉帯の風立ち我場



端脚立骨

せら〜このあの花〜

極田かくらの物遣〜

おろそしく流る下女の癖れ

隆明けしけの法を氣の統

庭いれくましく酒を伝

茶を夜と初鹿下るまを打

金銀

おもひくくはる唐志し

茶のくそもんはぬもの心

くまもくもくもくもく



抱
子
公

子
公

子
公



抱
子
公

抱
子
公

抱
子
公



天明五年己卯月日

獨行
弓下

